

高性能多核種除去設備 建屋堰内の溜まり水について

2016年12月22日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

概要及び時系列

TEPCO

■概要

- 12/17, 高性能多核種除去設備の弁と配管の接続部（フランジ）の下部床面に溜り水（2箇所）及び溜り水跡（2箇所）を確認（フランジ部からの滴下はなし）
- 溜り水は高性能多核種除去設備建屋の堰内に留まっていた
- なお、高性能多核種除去設備は待機状態であった

■時系列

【12/17】

- 10:17頃 高性能多核種除去設備建屋内において、協力企業社員が高性能多核種処理水タンクの出口配管下部に溜り水（約10cm×20cm）を確認（滴下はなし）
- 10:57頃 当社社員による現場確認を実施。新たに溜り水1箇所（約10cm×5cm）及び溜り水跡2箇所を確認（滴下はなし）
- 12:26 拭取り完了（溜り水の放射線量測定結果は、バックグランドレベルであった）

【12/18】

- 11:00頃 滴下したと想定されるフランジボルトの増し締めを実施

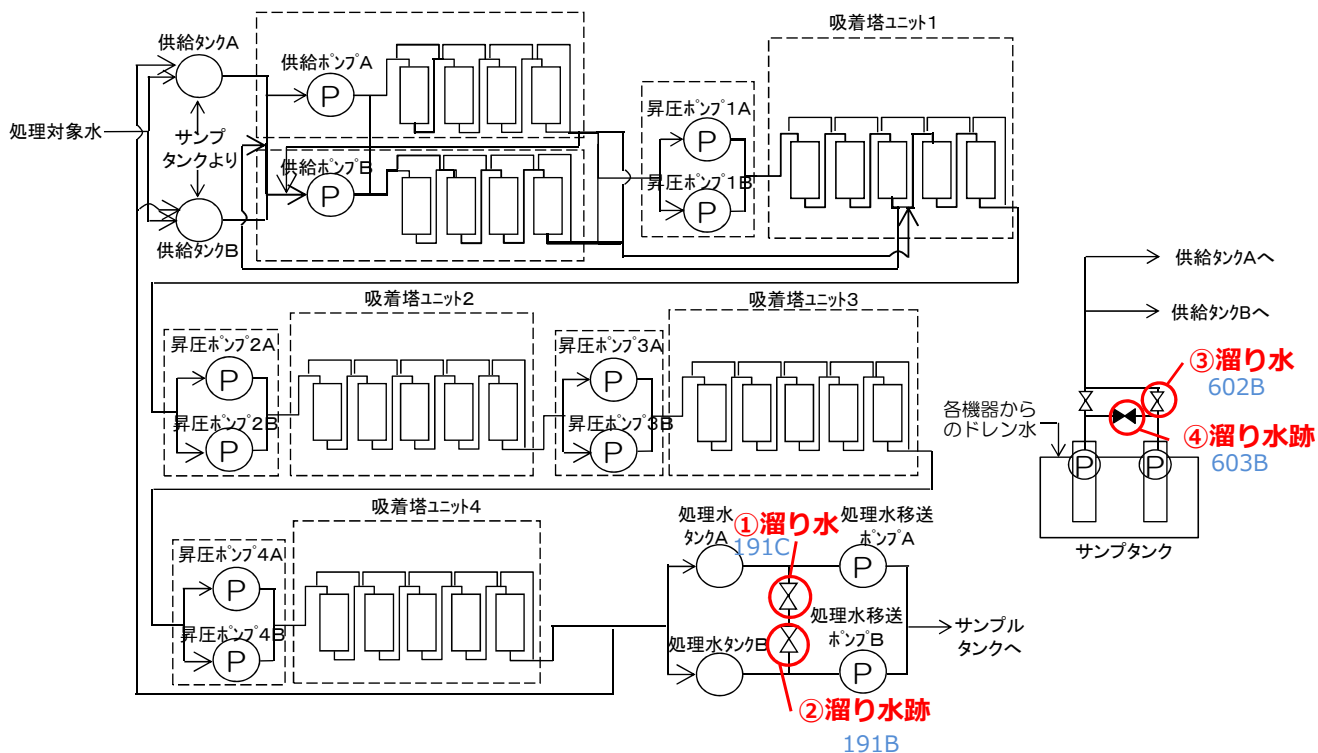
【12/19】

- 14:30頃 当該フランジ部からの滴下、下部に溜り水がないことを確認し、念のためビニル養生を実施

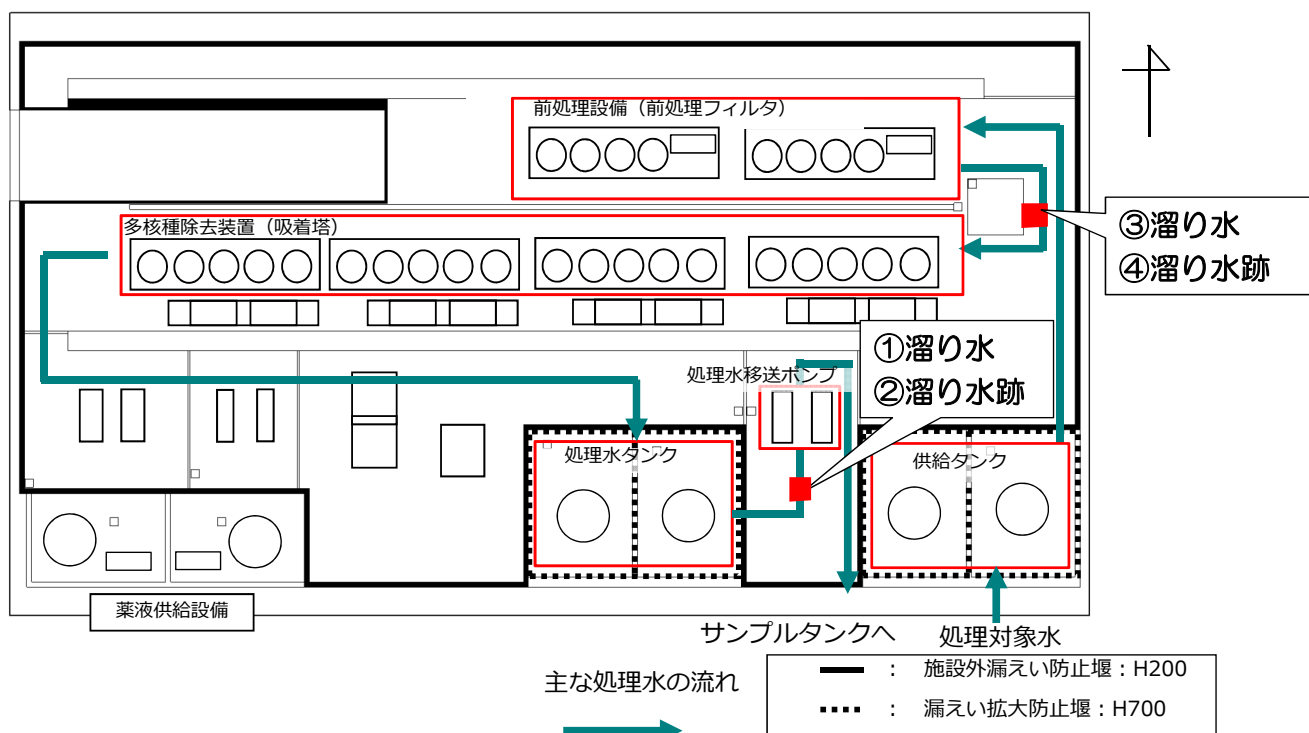
©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

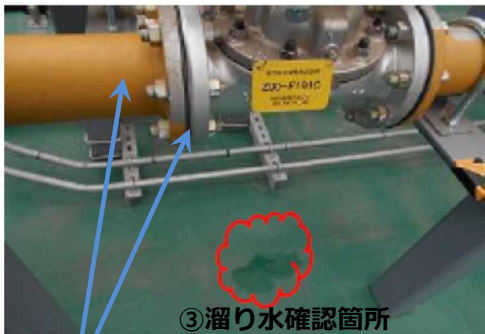
溜り水・溜り水跡確認箇所（系統図）



溜り水・溜り水跡確認箇所（機器配置図）



高性能多核種除去設備機器配置図



ライニング鋼管のため、封水にゴムパッキンを採用

今後の対応

- 12/18に当該フランジボルトの増し締めを実施し、12/19にフランジ部からの滴下、新たな溜り水の発生がないことを確認
 - 念のため、当該フランジ部にビニル養生を実施



- 停止中の高性能多核種除去設備からの漏えいリスク低減のため、今後、系統の水抜きを検討、実施していく計画
- ただし、系統水の排水方法、受入・移送先を検討する必要があるため、まずは類似箇所（ゴムパッキンを用いている箇所等）のフランジボルトの増し締めを実施する。また、建設時の締め付け記録（締め代、フランジ隙間等の記録）と今回の増し締め時の比較等から、必要な対策を検討していく